



海外でのプロデュースが現地でも話題に! オリジナルパーツも開発している

海外を拠点に制作し、大きなムーブメントを作ってきたJ-Pトレーディング。現地でオリジナルパーツを製造するなど、完成度にこだわった車両造りを徹底的に追求している。そのアイデンティティが日本国内生産にも活かされるのだ。

リアのFRP製カウルもV-MAXのライク専用で制作したJ-Pトレーディングのオリジナルアイテム。テールランプにコラムベットの修正を併用など、細部にもカスタムテイストを入れたものにこだわっている。



V-MAXロゴを入れたカスタムレジスターカバーもオリジナル。海外でも人気のパーツだ。細部のカスタムにも気を遣い、ストーリーがプロデュースの醍醐味でもあるのだ。



▲J-Pトレーディングの海外オフィスがこの建物。海外トライクチームのサポートも行うほど、よく知られた存在なのだ。

▼マフラー製作は日本国内で行われる。一本ずつオーダーに応えるワンオフの製作もお手の物。オリジナルパーツを併せて追求



▲名車CB400Fのレストア車両。手抜きのない丁寧な仕事が見えるほどの状態の良さを誇り、当時の雰囲気を残している。この整備技術がポイント。



▼レストアには欠かせないサンドブラストもここは一味違う。ウェットブラストを用い、サンドブラストでは不可能な箇所までも作業。ワンランク上のレストアに対応している。

レストア技術は一流を極める 充実の重整備でサポート

J-Pトレーディングには、往年の名車がズラリと並んでいる。そして、奥のピットでは、フルレストアされるバイクやパーツが整理されている。レストア技術で培った整備はトライクにも活かされ、販売される中古車のトライクは、分解整備とその整備の記録画像と共に納車される。



▼中古車のトライクを納車する場合は、分解し、きちんと整備するのにもJ-Pトレーディング流。これで行い、でも安心して乗車できるだろう。

国内販売モデルは全て国内生産を徹底

これから始まるJ-Pトレーディングのトライク国内販売に向け、トライクにカスタムされるベース車両や整備は万全の態勢が整っている。新たに生産拠点を宮城県に設け、本格的に参入するが、その内容はただの完成車ではなく、オーダーで製作しつつもリーズナブルな価格設定が魅力のプランとなる。

海外を拠点とし、トライク製作してきたことから、国産が心配りあるかもしれない。だが、国内販売の車両は、全て国内生産とすることも付け加えておこう。

ベースとなるV-MAXは、年式などによってベース価格も異なる。これから自らの手裏に合わせて選べるのもオーダーシステムのメリットといえる。



海外販売で大成功を収め 満を持して国内販売を開始

トライク業界に新風をJ-Pの挑戦がはじまる

J-Pトレーディングといえは、旧車好きなら一度は耳にしたことがある名前だろう。そう、旧車のレストア販売においての認知度は、余りにも高い有名ショップである。そのJ-Pトレーディングは、実は海外においてV-MAXベースのトライクを生産・販売して人気を博しているのだが、その経験を活かした試みを新たに日本国内で開始するといふ。

具体的には、オーダーによるトライクの製作・販売となるが、その価格に驚かされるベースプライスはなんと100万円を下回るのだ。そして、もちろん安くても、メイドインジャパンにはこだわらぬ。宮城県に新たに生産拠点を設け、製作はもちろん、レストアやペイント、カスタムまでに対応し、完全なるオーダーシステムを構築してくれる。

J-Pトレーディングの今後の動きからは、目が離せなくなりそうだ。

V-MAXベースのトライクが98万円から 全てオーダー製作の世界に1台を生み出す



Standard スタンダード

写真のV-MAXベースのトライクは、車両本体価格で98万円となる。この状態でも充分に満足出来そう。これがJ-Pトレーディングのベースプライスというから驚きだ。

フルカスタム Full custom

同社が製作したリアルフェイスのオールペンやワイヤークロームの調色したフルカスタムトライクがこれだ。納車時がフルカスタムに乗れるのは嬉しいポイントとなる。